

## 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する対応について

### 1 文の京 2020 ボランティア募集

大会関連事業に従事する区独自ボランティアを募集した。

- 募集期間：令和3年1月25日から令和3年5月31日まで
- 募集方法：区特設ホームページから申し込みを受付
- 協力要請団体：区内大学、消防団及び区内企業等
- 申込人数：802名

### 2 聖火リレー

感染状況を踏まえ、公道走行及びゴール地点のミニセレブレーションが中止となったが、以下の代替事業等を実施した。

	実施日	実施内容	会場
オリンピック	令和3年7月20日	点火セレモニー	中央区浜町公園
パラリンピック	令和3年8月20日	採火式	湯島天満宮境内瓦斯灯
		点火セレモニー	東京都障害者総合スポーツセンター

### 3 公式練習会場

- 会場：文京スポーツセンター
- 利用期間：令和3年6月28日から令和3年9月10日まで

種目	練習期間	利用	利用日数
ハンドボール	令和3年7月19日 ～令和3年8月3日	8チーム	10日/16日
パラバドミントン	令和3年8月27日 ～令和3年9月5日	27チーム	7日/10日

### 4 ホストタウン事業

#### (1) ドイツ

- 「文の京でドンドン・ドイツ語講座」  
ドイツ人講師による語学講座を3期に分け実施
- 「ドイツ文化講座」  
ドイツに関するスポーツや文化・芸術など広く区民の国際理解を促進
- ホストタウン通信発行  
ドイツの文化や慣習、料理等を紹介、区内小中学校中心に配布

## (2) パラリンピック難民選手団

令和3年6月29日付けでパラリンピック難民選手団ホストタウンに登録  
交流実績は別紙のとおり

## 5 オリンピック・パラリンピックこども新聞事業

- 第11号(令和3年7月16日発行)：聖火リレーコースの紹介、6月20日世界難民の日に実施した『文の京ホストタウン特別講座』を紹介
- 第12号(令和3年度内に発行予定)

## 6 今後の対応(予定)

- 事後交流  
文京スポーツセンターがハンドボールの公式練習会場として使用されたことを記念し、ハンドボール競技でオリンピックに参加したアスリートを区内小学校にて、競技体験や講演会を行う。また、教育の森公園でアスリートと生徒による記念植樹を行う。
- 記念銘板
  - ・パラリンピックマラソンコース沿道(文京区後楽一丁目2番12号 後楽橋付近)
  - ・湯島天満宮境内瓦斯灯付近(パラリンピック採火式実施会場)

## (参考) 東京2020大会へ向けた主な取組

### ○スポーツ

- ・文京スポーツセンター改修工事
- ・パブリックビューイング(サッカー、バスケットボール、ラグビーW杯)

### ○文化

- ・みんなで楽しむ「能(Noh)」プロジェクト
- ・文京区企画展(東京2020オリンピック・パラリンピックを応援しよう!!展)

### ○国際交流

- ・ドイツホストタウン通信の発行
- ・文京クリスマスマーケット2019

### ○観光・商業

- ・多言語化対応

### ○おもてなし

- ・スポーツボランティアの育成
- ・庁内留学 in BUNKYO

### ○まちづくり

- ・区内施設のバリアフリー化の推進
- ・公衆・公園等トイレの改修

## ＜パラリンピック難民選手団との交流実績＞

○令和3年6月20日：

『文の京ホストタウン特別講座～文京区から難民選手団を応援しよう～』  
会場：文京シビックセンターにて、UNHCR 駐日事務所及び、国連 UNHCR 協会の講師による  
難民問題及び難民選手団に関する講演、国連 UNHCR 協会によるワークショップ開催。会  
場での参加(40名)及びオンライン参加(30名)の双方ハイブリッド型で実施

○令和3年8月19日：子ども向けワークショップ『サトちゃんの大切なもの』

難民について学ぶワークショップ（オンライン開催）時に、パラリンピック難民選手  
団から文京区に向けたメッセージ動画を紹介。（イレアナ・ロドリゲス団長、パラ水泳  
のイブラヒム・アル・フセイン選手（シリア出身、ギリシャ在住）の2名）

※参加約100名

○青少年プラザ（B-1ab）との交流事業

大会期間中、区内中高生向け施設である B-1ab（ビーラボ）内のモニターでパラリンピ  
ック難民選手団の出場競技をライブ上映。施設内に選手紹介パネルを設置。

○令和3年8月16日～29日

東京ドームシティ ラクーアでのメッセージ動画上映、パネル展示など  
東京ドームシティ ラクーアガーデンステージにて、パラリンピック難民選手団の動画メ  
ッセージを放映。選手団紹介パネルの展示と青い紙ひこうき制作ブースを設置。

○令和3年8月23日：こども新聞記者による選手へのオンライン取材

こども新聞記者11名によるシャハラッド・ナサジプール選手（アメリカ在住、イラン  
難民）へのオンライン取材を実施。

※青い紙ひこうき事業

UNHCR ブルーの折り紙を、区内の学校、育成室（学童保育施設）、区内スポーツ施設、  
区内商業施設等に配布し、応援メッセージの意味を込めて折った青い紙ひこうきを重ねて  
連結する。区内に所在する国内有数の折り紙専門施設である『おりがみ会館』が作成し  
たおりがみの装飾物とあわせて、8月23日に都内で開催された IPC の記者会見時に選  
手団に贈呈した。

その後も、区内商業施設に設置したおりがみ作成ブースで作成した分を合わせて、最  
最終的に青い紙ひこうきは約1万機を超えた。

○令和3年9月3日

窪町小学校、指ヶ谷小学校の5年生を中心に、児童の家庭と文京シビックセンター、  
国立競技場をオンラインでつなぎ、パラリンピック難民選手団イレアナ・ロドリゲス団  
長と、IPCのテディ・カツツ広報専門員と交流した。

同日、選手団の一員であるシャハラッド・ナサジプール選手が出場した男子円盤投げの  
応援イベントも同交流会の中で実施した。参加者は100名を超え、交流を深めた。